



▲着々と整備が進む大通寺公園

次の百年に向けて

市内には豊公園のほかにもたくさん公園があります。大きな公園としては、石田山公園、奥びわスポーツの森、琵琶湖岸緑地などです。それらの公園は、大きな木や緑があふれ、多くの人に憩いや潤いを与えています。一方、まちなかにも、小さいながらもたくさん公園があり、市民の憩いの場所となっています。金屋公園などは、市民だけでなく、観光客の憩いの場ともなっています。



市では、個人の庭の草花や街路樹だけを見どりと考えているのではなく、公園や広場、田んぼや畑、林や森、川や池などを「みどり」ととらえ、まちの「みどり」の将来のあるべき姿と、それを実現するための取組などを定める「みどりの基本計画」を、今年度末を目途に策定していこうと考えています。今後は、「みどり」に関するみなさんの意見をお聴きし、それを反映させながら、進めていきますので、ご協力をお願いします。

さらに、現在整備が進められている大通寺公園は、今まで市民が入ることができなかった大通寺の裏庭を、誰もが利用できるオープンスペースとして整備し、市民に憩いを与える場所として開放されます。オープンは今年の夏の予定です。

街中に少ないみどり

公園整備等を積極的に行ってきた結果、他市に比べると一人あたりの都市公園面積は、多いのですが、市街化区域内（まちなか）の緑地量は少ないのが現状です。（下表参照）

市街化区域内緑地面積等（県内他市比較）

	1人あたり都市公園面積		市街化区域内緑地量		都市計画区域内緑地量		備考
	現況 (㎡/人)	計画 (㎡/人)	現況 (%)	計画 (%)	現況 (%)	計画 (%)	
長浜市	19.18	策定中	6.2%	策定中	67.1%	策定中	現況値：平成17年
彦根市	12.26	44.22	15.9%	24.1%	67.3%	72.6%	現況値：平成17年
栗東市	3.49	20.74	7.4%	8.5%	62.5%	61.7%	現況値：平成17年

■市街地の「みどり」の量

一人あたりの都市公園面積は、3市の中では一番多く、栗東市の5倍以上あります。しかし、市街化区域内の緑地量は、その栗東市よりも少なく、彦根市の1/3程度となっています。

みどりの主な効用・機能

①都市環境機能・改善の機能

- 気温の緩和
- 大気汚染の浄化
- 省エネルギー化に寄与



②防災機能

- 延焼や遅延の防止
- 災害時の避難場所
- 河川流量の調整、洪水の防止

③景観形成機能

- 自然景観の構成
- 田園風景の構成
- 都市景観に風格



④健康・レクリエーション機能

- 散策・自然学習の場
- 休養・休息の場
- 運動・遊びの場



豊公園、来年で百歳

先日、街頭で「まちの中で「みどり」がたくさんあるところはどこですか？」と尋ねたところ、答えの多くは「公園」でした。まさに「みどり」＝「公園」という感じでした。市内にはたくさん公園があります。多くの人に親しまれ市を代表するよな公園といえば、やはり豊公園でしょうか。そんな豊公園も、開園当時（明治42年）は、整地



▲開設当時(明治42年)の豊公園。左側の茂みが天守閣跡。

をされただけの公園で、木（みどり）といえば天守閣跡にあった木々や、新たに植えられた桜の苗木程度だったようです。大正3年には、大正天皇の御大札記念行事の一つとして、桜が植樹されました。その後、徐々に桜やもみじなどが植えられ、今では桜が約八百本、梅が約百十本、その他もみじや松などの木々が見られるようになりました。春には、梅・桜・新緑と市民や観光客の目を楽しませています。

▼花見でにぎわう今の豊公園。中央奥が長浜城歴史博物館。



しかし、最近では花見の時など、ゴミをそのままにして帰ったり、木を傷つけたりとマナーの悪さが目立ち、木が弱ってきています。百年後もみどりあふれる豊かな公園であるためには、木や公園をしっかりと守っていく必要があります。百年後、市内をみどりいっぱいにしていくため、まずは、身の回りのみどりを守り、育てていきたいと思います。

実はこの豊公園、地主や議会からの反対があつたけれど、建設を断行されたと言われています。今ではその決断のおかげで、お花見やさまざまなイベントが楽しめ、私たちに癒しを与えてくれるみどりの空間となっています。そんな素晴らしい公園になった背景には、将来を見据えた強い思いと百年という長い年月、さらには、木を大切に育ててこられた先人の地道な努力があつたことを忘れてはいけません。